

平成 27 年第 11 回沖縄県教育委員会会議（定例会）議事録

1 開会及び閉会に関する事項

平成 27 年 8 月 27 日 午後 3 時 2 分開会
午後 4 時 26 分閉会

2 出席者及び欠席委員の氏名

(1) 出席者

委員長 泉川 良範 委員 照屋 尚子 委員 宮城 奈々
委員 喜友名 朝春 委員 新崎 速 教育長 諸見里 明

(2) 欠席委員

なし

3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括監	山城 秀史	教育指導統括監	平良 勉
参事	運天 政弘	参事	諸見 成明
総務課長	新垣 悦男	教育支援課長	識名 敦
施設課長	親泊信一郎	学校人事課長	新垣 健一
県立学校教育課長	與那嶺善道	義務教育課長	大城 朗
保健体育課長	狩俣 好則	生涯学習振興課長	平良 朝治
文化財課長	萩尾 俊章		

4 議事関係

(1) 開会

泉川委員長が開会を宣告した。

(2) 議事日程の決定

議事日程は、会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

(3) 平成 27 年第 10 回議事録の承認

全出席委員異議なく、平成 27 年第 10 回議事録を承認した。

(4) 議事録署名人の指名

泉川委員長が、新崎委員を議事録署名人に指名した。

(5) 報告事項

報告事項 1・沖縄県教育委員会規則の一部改正（沖縄県立特別支援学校の通学区域に関する規則）

【説明（県立学校教育課長）】

資料に基づき、「沖縄県立特別支援学校の通学区域に関する規則」の一部改正について報告を行った。

【質疑等】

特に無し

報告事項 2・平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果報告

【説明（義務教育課長）】

資料に基づき、平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果報告について報告を行った。

【質疑等】

○照屋委員 昨年度よりも子ども達の意識が高まって、先生方の授業の改善もされているというのが数値に現れ、良い結果を出すことができ、大変嬉しく思っております。教育委員会では学力向上推進室を設置して学校を支援訪問し、学校現場では組織的な動きで児童・生徒へのわかりやすい授業を展開し、先生方の授業改革がなされ、児童・生徒の「やればできる」、「諦めない」という学習意欲に繋がった結果だと思っております。児童・生徒、先生方の頑張りを褒め称えたいと思います。中学校に関しましては、課題も多く見られますけれども、私が個人的に感じることは中学 1 年生の中 1 ギャップをそのまま引きずっていて、中学校の環境になかなか馴染めない生徒もいるのではないかということです。教科ごとに担当の先生が替わりますから、教科によっては先生との信頼関係をなかなか築けずに、学習意欲が低下している生徒も私の周りでは見受けられます。先生と生徒の信頼関係が基盤となって授業も成り立つと思いますし、学習意欲も出てくると思いますので、丹念な指導や声かけをお願いしたいところです。それから、また話はちょっと飛びますけれども、先日「みんなの学校」という大阪市住吉区の大空小学校のドキュメンタリー映画を見て参りました。どんな子どもでもやればできるというポジティブ思考で子ども達に前向きに関わる大人達、それから先生と保護者の信頼関係、地域の方々との連携、子ども同士の関係性の質を高めることによって学び合い、励まし合い、高め合うという関係性が見られたほか、支援を必要とする子ども達には、先生方が課題を共有し、校長先生を筆頭にした職員のチーム力で対応するなど、大変示唆を与える内容でした。学校は子ども達の基礎学力を保障しなければなりませんので、これからも現場の先生方を信頼して、児童・生徒の頑張りに期待したいと思います。

○新崎委員 質問ですが、昨年度とのポイントの比較の説明がありましたが、一昨年度との比較の中ではどうなっていますか。

○義務教育課長 小学校は昨年度、非常に躍進しましたので、A問題もB問題も全国の順位でいうと 32 位ぐらいまで上がりまして、中学校は 47 位ではあったんですけども、全国との差がだんだん縮まっているというような傾向にあります。

○新崎委員 感想になりますが、小学校は新聞でも報道されているように昨年度の 24 位から

20位とさらに成績を上げておりますので、学力が定着をしてきているんじゃないかと思えて良いのではないかと思います。それから中学校は変わらず全教科で最下位ではありましたが、全国との平均のポイントが2年連続で縮まっているということでもありますので、底上げは着実にできたというふうに判断しております。小学校、中学校のほとんどの科目で成果が上がっているということですので、指導のあり方については、効果があると判断していいのではないかというふうに思っております。特に、小学校の順位、それから国語Bが大幅に上昇しているということは、短期的な対策では難しいと思いますので、色々と授業改善等も含めて、指導の効果が現れているというふうに見ております。学力向上推進室を中心にして、担当者が学校訪問をして、授業改善の支援に踏み込んで行ったということと、それから先程から考えさせる授業ということで、様々な工夫をしているということがありましたけれども、そういった努力が功を奏しているのではないかというふうに思っております。この努力を続けていけば、さらに向上できるのではないかと期待しております。

- 喜友名委員　ちょっと質問させていただきたいと思います。ノート指導が学力向上に大きく貢献しているという話を聞いています。やはりノートを活用しながら、書きながら考えていくという仕組みだというふうに思うのですが、ノート指導について学校だけではなく、家庭学習でも習慣化されているかといった点については、伸びてきているのか、そういうことも含めて考えると、やはり家庭の協力もあるのではないかとと思うのですが、そのあたりはいかがでしょうか。
- 義務教育課長　家庭との協力という意味では、やはりもっとあるべきじゃないかなというふうに考えます。本県の場合、色々な課題がありまして、家庭が背負い込んでいる問題というものもかなり色々なものがあります。ですから、例えば朝食を摂る児童・生徒の割合が増えてこないというようなことや、家庭と連携して、一緒に頑張ればもっと取り組めるんじゃないか、もっと良くなるんじゃないかというところがあります。そういう意味で、ぜひこれから家庭との連携、あるいは地域との連携を頑張っていきたいと思います。
- 喜友名委員　前年度に引き続いて本年度も良い結果が出たということで、関係者の皆様をはじめ小学生、それから中学生の皆さんにも頑張っていたことを高く評価したいと思います。2007年の全国学力テストの結果を受けて、各市町村の教育委員会が学力向上推進運動に本格的に取り組んだということも以前聞いておりますけれども、昨年度は本県の小学校の全教科総合が全国24位という躍進を遂げ、中学校でも全国平均との差が縮小したということもあって、県民の皆様からも、多くの意見、助言等をいただいた状況がございます。引き続き成績が向上したということですが、少なからずそのことによって課題も出てきているのかなというふうに思っております。そのためにも現在進めている沖縄県教育振興基本計画の「学校教育の充実」等の中で学力向上対策がどう位置づけられているのか、その努力によってどういうことが課題になっているのかということも整理をしながら、その計画の中で県民にも説明をしていく機会が、色々な分野で行われたらいいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

- 宮城委員　先程ご説明がありましたように、詳細な分析や調査と、リーダーシップ、それ

と現場の先生方の指導力向上や改善など、継続した取り組みが今回の結果として現れたのかと見ております。特に小学校においては昨年の24位、今年全国で20位という結果が見られまして、これまで数年の持続した取組がベースにあるとは言え、指導力の改善が本当に効果的に短期間で見られたというところに、やはり指導力の大切さというのが見えてきたような気がします。中学校においては、全国最下位ではありますが、全国との差が縮まったということは、これも改善が見られる結果だと思えます。8ページの学校質問紙の指導体制に係る状況のグラフですが、これを見ますと「ノート指導」と「学習規律の維持」というのが小学校、中学校ともに上がっていて、「思考を深める授業」と「活動の時間」の方は、それに比べるとまだ低いですが、「ノート指導」と「学習規律の維持」が、おそらく現段階では基礎力構築に繋がっているのかなと見ておまして、「思考力を深める授業」や、もう一つの「活動の時間」の方は今後、基礎力の構築が持続することで徐々に上がっていくのではないかと期待しています。

○教育長 今回の20位ということについては、嬉しさを学校全体、県民全体で共有したいと思っております。2007年度、平成19年度に最初の全国学力テストが行われたのですが、その時の全国最下位という結果は大変ショックでした。我々は「平成19年度ショック」と呼んでいますが、それから6年間、6年連続ずっと最下位を脱出できなかった訳ですが、行政として、県教育委員会として手をこまねてきた訳ではなく、例えば、学力向上推進本部会議を設置する、それから学力向上主要施策「夢にぬふあ星プランⅢ」の策定、それから特に先生方の研修会の実施にはかなり力を入れてきたつもりです。教育センターともタイアップした出前講座による教師力の向上や学校の組織力向上への取組といった努力が、やっと花開いてきたのではないかと感想を持っております。特に昨年度から学力向上推進室を設置して、学校支援訪問を徹底的にやってきましたのですが、その中で力を入れたのが、やはり先生方の授業力の改善、わかる授業の構築、それから積み残しのないような学習体制、といった点だと思っております。そうした取組を契機として、校長先生方のリーダーシップにより学校の意識を変えていったことが結果に繋がってきたのではないかと考えております。家庭との連携もうまく行き始めていて、特に生涯学習振興課が実施している「家～なれ～運動」を今後も強力に進めていきたいと思えます。特に中学校は学力面で大きな課題を抱えておりますので、家庭との連携や生徒指導等を深めて、次は中学校にチャレンジしていきたいと思えます。

○委員長 ありがとうございます。私は底上げが一番貢献したのだろうという事で、学びから遠かった子供たちが分かりやすい授業や、先生方の頑張りで、「わかる」、あるいは「勉強が好きになる」といった形で数字となって表れたことが非常に良かったと思えます。去年の成果だけで、点で終わってしまったらどうしようかということもあったかもしれませんが、二年続いて線になって、これが県全体の面になって広がっていくことを期待したいと思います。今日は旧盆の中日（なかび）、昨日はウンケーで沢山ご先祖様たちも迎えて今日明日と一緒に喜んでいけるんじゃないかなと思います。子供たちは頑張っています。次は大人がどうするかではないでしょうか。そこが問われているということで、ご先祖様に顔向け出来るように一緒に頑張りたいと思います。課題もたくさんありますが、

課題は課題として一緒に克服していけるようにしていきたいと思います。

報告事項3・平成27年度全国高等学校総合体育大会（2015 君が創る近畿総体）結果報告

【説明（保健体育課長）】

資料に基づき平成27年度全国高等学校総合体育大会の結果について報告を行った。

【質疑等】

- 宮城委員 スポーツは得意ではないですが、テニスのダブルスは新聞に大きく載っており、喜んで記事を読みました。この参加している生徒さんたちはどのように県内から選ばれているのでしょうか。
- 保健体育課長 県の高校総体を開催しまして約一万人程度の選手が各地区から選抜されて出てきますが、そこで優秀な成績をあげた方が選ばれることとなりますが、全国大会の前に九州大会があり、そちらで好成績を挙げた選手が派遣される競技もございます。
- 宮城委員 競技の種類はどれぐらいあるのですか。
- 保健体育課長 インターハイでは30競技、沖縄県が参加したのが25競技ですが、その他にも駅伝競走やラグビー、ゴルフやボウリングでも活躍しております。
- 宮城委員 好成績は喜ばしいことなのですが、印象としてほとんどが中南部の学校で北部の学校が1校も見られないのが残念に思います。
- 保健体育課長 参加校としては41校ありますが、やはり活躍する、上位に行くチームというのは限られてまいります。
- 宮城委員 参加はしているということですね。
- 保健体育課長 はい。

- 新崎委員 全国でこれだけの成績を上げているわけですから、本当に素晴らしい成果だと思います。去年もだいたい似たような実績だということですので、毎年素晴らしい成果を上げているんですね。子ども達の頑張り、それから学校の指導のおかげだというふうに思っております。今後とも活躍されることを期待しております。

- 照屋委員 生徒達の頑張りもそうですけれども、やっぱり背後には顧問の先生、コーチ、それから家族の支援や、試合に出られない同じ部活動の生徒達の応援等、様々な支援があってこの成績が収められていると思いますので、この資料には表れていませんけれども、背後で支援された方々にも敬意を表したいと思います。

- 喜友名委員 参加者数が574名ということですがけれども、開催県が遠かった場合に、予算の都合で参加人数が減ったりとか、あるいは総体として予算が縮小傾向にあるですとか、スポーツの教育上の観点から増えていってきているですとか、そうした状況はどうなっているのでしょうか。
- 保健体育課長 予算の関係で絞られているというようなことはございません。また各地区それぞれの種目で代表選手を送りますので、それぞれの地区ごとに偏りがあるということもありませんが、開催県には開催枠というのがございますので、一競技二人出すとか、そういうことで多くなることはございます。

報告事項 4・第39回全国高等学校総合文化祭（2015滋賀びわこ総文）等の結果報告

【説明（文化財課長）】

資料に基づき、第39回全国高等学校総合文化祭等の結果について報告を行った。

【質疑等】

○照屋委員 全国の高文祭滋賀大会に向けての壮行会に参加させてもらったのですが、どの出場者も表現力が豊かで、とても高いレベルだと思い、見応えがあった記憶があります。マーチングの方は今回、壮行会での演奏はなかったのですが、これまでの伝統として、部活動の中でも、とても厳しい練習をされていると聞いています。その練習をくぐり抜けて全国大会に出場して2年連続の最高賞受賞ということは本当に嬉しい限りです。また、後輩の指導等にも力を入れているようですので、伝統として後輩を指導していただくことにも期待をしています。南風原高校の郷土芸能部の方も毎年発表会を見せていただいているのですが、やっぱりレベルが高く、郷土芸能部卒業後、一般になってからも活躍している卒業生がたくさんいると聞いていますので、この大会に出られた生徒の今後の活躍も期待したいなと思っております。

○宮城委員 今、照屋委員からもお話がありましたが、同じく文化においても好成績を収めたということをととても嬉しく感じています。特に私が注目したのは郷土芸能部門で、南風原高校が優秀賞を受賞したほか、八重山農林高校も郷土芸能部の伝統があるところですが優良賞という成績を残したということです。受賞したのは、南風原高校の郷土芸能部ということではあるのですが、南風原高校には郷土文化コースがあり、その存在は大きいと思います。3年間、三線や舞踊等をみっちり鍛えた成果が今回表れたのだと思います。十代の頃に、こういう郷土の芸能、歴史や文化に関わり、3年間研鑽するということはとても大きいことだと思います。私自信、十代の頃にそういうところに興味は無く、外に興味に向いていたこともあり、多感な時期に自ら選んでそこに入るといったことは、尊敬に値すると思います。少し話がずれますが、首里高校の染織科にしても、そういう分野に興味を持って、自ら入学して、そこで学ぶということはとても大きいことであり、将来、沖縄の文化を担い、普及したり、継承したりという役割を努めていく人材だと思っております。南風原高校の郷土文化コースのように3年間のコースだったり、首里高校の染織科も3年間みっちり伝統工芸の基本を学ぶわけですね。そうしたことは、卒業してから、進学だけでなく、就職にも役立つことだと思いますので、「沖縄の文化を3年間みっちり学びました」という、証明書や認定書等、何か彼らに就職に役立つようなものが、あってもいいのではないかと思いますので、将来的に検討していただければと思っております。

(6) 議案審議

審議事項 1・沖縄県立南部高等支援学校（仮称）に係る校名候補について

【説明（総務課長）】

資料に基づき、沖縄県立南部高等支援学校(仮称)に係る校名候補について説明を行った。

【質疑等】

- 宮城委員 3つの校名候補について、順位付けがされているのですが、その理由について、説明をお願いします。
- 総務課長 校名検討委員会の中で委員の中から特別支援教育に関しては、ソフトなイメージ、優しいイメージがいいのではないかとということで意見がございました。その後、委員の総意として、各委員の投票の結果により優先順位を決定することとなり、投票の結果、1位が平仮名の「やえせ高等支援学校」ということとございました。
- 宮城委員 わかりました。このソフトな柔らかいイメージということで平仮名を使ったものが選ばれたということですが、応募状況もこれが多いということですか。
- 総務課長 名称としては2番と3番も読み方としては「やえせ高等支援学校」となりますので、件数としては多いこととなります。
- 新崎委員 八重瀬というのは合計20件で、数としては多いということですね。
- 総務課長 そうしたことに加えて、12番の「八重瀬特別支援学校」ですとか、「八重瀬」という文字が入っているものがいくつか見られるということもございます。
- 委員長 この3つの中から、どちらがよろしいかご意見ををお願いします。
- 照屋委員 この校名検討委員会の順位を尊重して、1番の「沖縄県立やえせ高等支援学校」でいいのではないかと思います。あと、この校名応募一覧表を見ていると生徒達から出された校名の理由の中で「南部商業生と同じ仲間だから」とか「仲良く学校生活を送ってほしいから」とか「色々な人と絆をつくってほしいから」とか「人と人との繋がりを大切にする学校にしたい」とか「愛に溢れる学校にしたい」といったように、生徒達の気持ちが込められた名前がたくさん応募されているということに本当に感動しました。これから開校した時の共同学習や交流学習に期待をして、みんなの繋がりのある学校になったらいいなと期待しています。
- 喜友名委員 私も「沖縄県立やえせ高等支援学校」がいいと思います。理由は、先程の応募一覧にあるように所在地の地名でもあり、平仮名で「やえせ」とすることで親しみが出るということで一番適切ではないかと思っております。

【採決の結果】

全会一致により、「沖縄県立やえせ高等支援学校」を校名候補に決定した。

審議事項2・沖縄県離島児童・生徒支援センター（仮称）に係る施設の正式名称候補及び愛称について

【説明（教育支援課長）】

資料に基づき、沖縄県離島児童・生徒支援センター（仮称）に係る施設の正式名称候補及び愛称についての説明を行った。

【質疑等（正式名称候補）】

- 新崎委員 正式名称候補が2つあるわけですね。「県立」と入れるのかあるいは「県」とするのかということですがけれども、県立の施設の場合は名称に「県立」と入れるのが通例だという説明がありましたけれども、もう少し具体的に説明していただけますか。
- 教育支援課長 教育委員会で所管する県の施設というものが、例えば県立図書館、青少

年の家、それから県立高等学校もそうですけれども、教育センターも含め全て「県立」となっております。教育庁組織規則という教育委員会規則がありまして、その中で教育委員会の所管に属する教育機関は次のとおりとする、ということで、列記されていますが、それが全て「沖縄県立」というふうについておりまして、そういう並びからしても教育委員会所管の教育機関の位置付けからすると「沖縄県立離島児童生徒支援センター」という名称を付けるのが適切ではないかと思っております。

- 新崎委員 名称に「県立」を入れるのが通例というふうになっているということですから、その例に従って「県立」と命名をした方がいいのではないかと思います。
- 宮城委員 同感です。
- 照屋委員 異議無し。

【採決の結果（正式名称候補）】

全会一致により、正式名称を「沖縄県立離島児童生徒支援センター」に決定した。

【質疑等（愛称）】

- 委員長 引き続き、施設の愛称について協議を行いたいと思います。愛称についてご意見、ご質疑はございますでしょうか。
- 宮城委員 この「群星寮」は、応募者が中学生となっておりまして、読み方も「むるぶし」と応募してきているということで、他の読み方もあるのですが、愛称ですから、応募者が「むるぶし」というふうに応募しているので、「むるぶし」と呼んで良いのではないかと思います。愛称に込めた思い等を見ましても、やはり「むるぶし」が断トツで私は良いのではないかと思います。この中学生は、離島の中学生ということでしょうか。
- 教育支援課長 そうですね、渡嘉敷の中学生のようです。
- 宮城委員 離島の中学生ならではの愛称ではないかと思います。この愛称に込めた思いからとても伝わってくる気がしました。優先順位においても1位に「群星寮」が挙げられていることですし、私は「群星寮」を推したいと思います。
- 照屋委員 同じで。
- 委員長 よろしいですか。私も先程、宮城委員からあったように応募のあった4件が「群星（むるぶし）寮」「群星（むるぶし）」「昂星（むるぶし）」「南群星寮（はいむるぶしりょう）」となっており、「むりぶし寮」「むりぶし」等については応募がなかった点や、先程聞いたところ、渡嘉敷からの応募でありますとか、南群星はおそらく石垣からの応募ということで、離島から応募されているということであり、センターの主旨は、離島の児童・生徒を支援するというものですので、やはり離島の方々の「むるぶし」にかける思いというものは尊重されて然るべきではないかと思います。「むりぶし」「むるぶし」と色んな議論があるかもしれませんが、それも含めて話題になるということもこの「群星寮」の価値を高めるということで「群星（むるぶし）寮」ということでよろしいのではないかと私も個人的には思います。
- 教育長 ぜひ私としては、「むるぶし」とルビや読み仮名を付けて欲しいという提案をしたいのですが、いかがでしょうか。
- 宮城委員 あった方が良いですね。

○喜友名委員 賛成ですね。

○新崎委員 今後の施設のあり方、運営についての要望なのですが、離島支援センターの施設設備は進学のために生まれた島を離れる生徒や家庭の精神的、経済的負担の軽減に役立つと思います。特に家族の経済的負担はかなり大きいと言われております。数年前に新聞等でアンケート調査した実態調査では平均的な世帯収入の約6割だと言われていいますので、かなり負担が大きいと思います。ですから、施設づくりだけではなく、生徒にとって使い勝手のよい施設になるよう運営してもらいたいということと、それから、教育委員会として更なる家庭の経済的負担等、それから生徒に対する精神的な支えといいますか、その取り組みに配慮してほしいというふうに要望しておきたいと思っております。

【採決の結果（愛称等）】

全会一致により、施設の愛称は「群星寮」（むるぶしりょう）とし、ルビを振り「むるぶし」と明記することを決定した。

(7) その他

特になし

(8) 閉会

泉川委員長が閉会を宣言した。